

北区飛鳥山博物館だより

2010.9.20

25

ぼいす

秋 期 企 画 展

中里貝塚国史跡指定10周年記念

奥東京湾の貝塚文化

—中里貝塚とその時代—



本邦考古學ニハ最樞要ナル一介塚・・・
此貝塚こそ誠に迷惑千万の位置に立つもの・・・

会 期

平成22年10月23日(土)～12月5日(日)

休 館 日

毎週月曜日

開館時間

午前10時～午後5時

会 場

特別展示室・ホワイエ

観 覧
無 料



中里貝塚国史跡指定10周年記念

奥東京湾の貝塚文化 —中里貝塚とその時代—

中里貝塚は、現在の JR 上中里駅近くの低地部に広がる貝塚です。古く、明治時代より注目されてきましたが、その立地・出土資料の乏しさから、謎の多い貝塚とされてきました。

しかし平成8年に大規模調査がおこなわれると、その全容と特殊性が明らかとなり、中里貝塚は再び注目を集めることとなります。

本貝塚の貝層は、粒揃いのハマグリ層とマガキ層が交互に幾重にも重なり合う形で形成され、広がり・厚さともに国内最大規模を誇ります。さらにこの遺跡からは貝類の加工に関わる遺構・遺物も多く見つかかり、中里貝塚とは、当時の浜辺に作られ、貝類の加工処理に特化した場所であったことが判明しました。

この企画展では、国史跡指定10周年を記念し、改めて中里貝塚とはどんな貝塚であるのかをご紹介しますとともに、中里貝塚が営まれたことの意義を、奥東京湾という地域全体から探ります。



明治頃の中里貝塚
「中里貝塚ヲ飛鳥山丘統キヨリ望ミタル図」(『東京人類学会雑誌』1896年)

【関連事業】

① 新・遺跡探訪「南関東の貝塚をあるく」(3回連続)

日時：(1日目)10月24日(日)午前10時30分～午後3時(予定)

(2日目)11月3日(祝)午前10時～午後4時(予定)

(3日目)11月6日(土)午前10時～午後4時(予定)

会場：(1日目)当館講堂・野外、(2日目)・(3日目)野外

定員：35名(抽選)

講師：当館学芸員 安武由利子

参加費：150円(保険料)

申込：往復はがき10月13日(水)必着

② 中里貝塚国史跡指定10周年記念シンポジウム「中里貝塚と縄文社会」

日時：11月21日(日)午前10時～午後4時30分(予定)

会場：当館講堂

定員：80名(抽選)

講師：阿部芳郎氏(明治大学文学部教授)ほか

申込：往復はがき11月2日(火)必着

③ 企画展ミュージアム・トーク

日時：①11月7日(日) ②11月20日(土)

①②とも午後1時30分～2時30分

会場：当館特別展示室

定員：30名(当日先着順)

講師：①当館学芸員 鈴木直人 ②当館学芸員 安武由利子

申込：不要(特別展示室入口にお集まりください)

※関連事業の詳細はお問い合わせください。

<問い合わせ>

〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 北区飛鳥山博物館

Tel.03-3916-1133 Fax03-3916-5900 月曜休館

URL: <http://www.city.tokyo.jp/misc/history/museum/index.htm>

VOICE

博物館の文化財保護

今年の4月から飛鳥山博物館では、新たに、国の「文化財保護法」や都・区の「文化財保護条例」に基づく「文化財」の保存と活用に関する仕事も担当することになりました。「どんなことをしているの?」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。そこで、この機会に仕事の一端をご紹介します。一つは埋蔵文化財の対応です。毎日のように、博物館には建物などの建築を計画している方々からお問い合わせがあり、建築前に埋蔵文化財の確認や調査の対応を担当の学芸員が行っています。

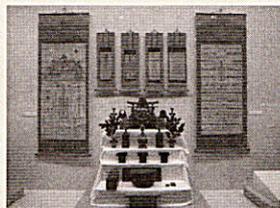
調査といえば、一年を通して、古文書調査や地域ごとの昔の様子などを記録していく民俗調査も行っています。「古文書」とはいえ、扱っているのは江戸時代の文書だけでなく、明治から昭和時代まで、北区のことが分かる「古文書」を分け隔てなく分類・整理・記録しています。この他、指定文化財の指定や修理、維持にかかわる仕事などもこれからは博物館が行っていくため、

各々の担当者は忙しく北区内外を動き回っています。

また、この6月には新しい試みとして、北区指定有形民俗文化財「田端富士三峰講祭祀具関係文書」の特別公開も行いました。これも普段目にする機会の少ない文化財をたくさんの方に知っていただきたいとの思いを込めたものでした。

リニューアルをした飛鳥山博物館は、こうした文化財の調査や保護・保存・活用という新たな役割も担いながら、「北区の記憶」を次の世代に繋ぐ、発信基地として新たな一歩を踏み出しました。

(Y)



特別公開時の「田端富士三峰講祭祀具」

新生・北区飛鳥山博物館もヨ・ロ・シ・ク！

本年3月末に部分リニューアル・オープンした当館ですが、変化したのは外側ではありません。館の内側でも旧生涯学習推進課文化財係と当館が統合され、一挙に館長以下19名の大所帯となりました。組織としても、管理運営係と事業系の2係を両輪として、よりパワフルに活動できる体制が組みられました。

そこで、今号では新生・博物館で展示や講座、文化財事業の最前線に立つ学芸員10名に現在の意気込みを語ってもらいました。それぞれ専門もキャリアも異なりますが、北区の歴史や文化を守り、伝え、発信するために力を注いでいくという思いは一つです。

新生・北区飛鳥山博物館は新たなスタートラインに立ったばかり！ これからもよろしくお願いたします。

【質問項目】

①名前 ②専門(これならまかせて!) ③新生・博物館でやりたいこと

◆事業係



①中島 広顕(なかじま ひろあき)
②考古学。昭和58年から区内の遺跡発掘調査に従事。北区の遺跡のことなら何でもお答えします!!
③博物館には私が発掘した考古資料がいっぱい展示してありますので、発見された時のことなどお話できればと思います。また、新発見の資料なども、できるだけ早く来館者にお見せできるよう企画したいと考えています。



①牛山 英昭(うしやま ひであき)
②考古学。常設展示室にある2点の弥生時代の鉄釧(腕輪)のことを、色々と調べました。
③北区は、東京における「遺跡の宝庫」という良いところ。発掘調査で得た成果を、博物館での展示などを通して、皆様を紹介していけたら良いと思います。



①中野 守久(なかの もりひさ)
②考古と古文書以外なら取り敢えずなんでも取り組みます。
③博物館資料・文化財とも利用者の方々へ新しい価値をお届けできるよう調査研究、普及啓発活動に熱中したいと思っています。



①川上 真理(かわかみ まり)
②日本近世史。能・神楽・芝居などの芸能を追いかけて10数年。祭りに出没しています。
③いつか、皆様の目に触れることを心待ちにして、区内に眠る文化財を掘り起こします。



①石倉 孝祐(いしくら たかすけ)
②当館では文字資料や画像などの歴史文化表象の分析や民俗芸能を主に担当しています。
③私は開館以来、非力ながらも多種多様な企画展や講座を立ち上げ、お客様に喜んで頂けるよう模索を繰り返して参りました。どうぞこれからもよろしくお願い申し上げます。



①安武 由利子(やすたけ ゆりこ)
②考古学(特にお墓関係)。缶バッジを始めとするグッズの製作・開発も担当しています。
③考古学の知識は五感で獲得すべし! 博物館内外の枠を飛び越えた参加型講座などを通して、生活の身近に隠れている考古学の面白さ・楽しさを、最新の発掘調査情報も交えつつ、皆様にお伝えしていきたいです。



①山口 隆太郎(やまぐち りゅうたろう)
②北区ふるさと農家体験館(旧松澤家住宅)から団地の展示など、建物関係が得意です。
③北区の歴史を未来に繋げる上で大切な文化財の保護・保存の仕事を充実させ、展示や講座など、博物館ならではの利点を生かして文化財のことを区民の皆様へ身近に感じていただけるよう、取り組んでいきたいと思っています。



①平澤 佑加子(ひらさわ ゆかこ)
②博物館学。クラの研究をしています。
③リニューアルした博物館には、以前にも増してたくさんの方が来館されます。そういった区内外の方々へ北区の魅力や文化について、もっと情報を収集したいと考えています。

◆管理運営係



①鈴木 直人(すずき なおと)
②考古学を担当しています。小学生の相手ならまかせて?!
③北区の歴史の情報発信基地として、より一層バラエティーに富んだ活動を行っていきたくいですね。例えば、速報展示などをぜひやりたいと思っています。個人的には古代のモノ作りの技術を身につけたいです。



①久保 企美子(くぼの きみこ)
②(専門は「北区」と言いたいところですが、)主に民俗資料、浮世絵を担当しています。
③北区により興味を持っていただける展示や講座を実施できるように研鑽を重ねる一方、収蔵資料の整理・調査に励み(と自らに課し!)、できるだけ多くの資料を博物館の内外で活かしていきたいと思っています。

西ヶ原

NISHIGAHARA

駒込から飛鳥山へと通る本郷通り。その昔、江戸の時代では日光御成道と呼ばれていたんだとか。徳川の将軍がお通りになられたこの街道の、両側一帯が西ヶ原。ここ西ヶ原には大きな杉の木が、ご神木の神社や、兵たちも夢の跡、昔々のお城があったとか。そうそう、地面の下を覗いてみれば、ここは豊島郡の中心地、古代の役所が眠ってる。ぶらりぶらりと歩いてみると、そこかしこで歴史の語り部と出会えます。今回はそんな西ヶ原をクローズアップ！

正倉院は奈良県だけではない!?

正倉院というと思えばのは奈良県の東大寺にある、あの校倉作りの建物ではないでしょうか。しかし、実はここ北区にも正倉院があったのです。場所は現在の国立印刷局滝野川工場がある辺り。この周辺には奈良・平安時代の役所、豊島郡衙があったのです。正倉院はその一部。1棟1棟の倉のことを正倉と言いますが、何棟も建ち並んだ場所を正倉院と呼ぶんです。ところで正倉は何のための建物かご存知ですか？正倉は村人たちから税として徴収した稲粃を納めるための倉なのです。(東大寺の正倉院の中には宝物が入っていますが・・・)当時の面影は現在ありませんが、私たちの身近な場所にも正倉院があったのですね。



復元された正倉 (北区飛鳥山博物館)



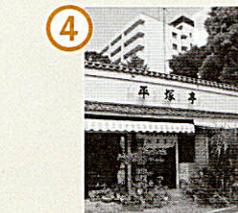
西ヶ原散策コース案内



① 秋には黄色く色付く大銀杏



② みごとな榎の一里塚 (国史跡)



④ 浅見光彦が通ったとか



③ 不思議な石像 その正体は?!



⑥ 旧古河庭園 (国名勝) バラが有名



⑤ 平塚神社 何をお願いしようかな?



⑧ 霜降銀座のマスコット「しーちゃん」!



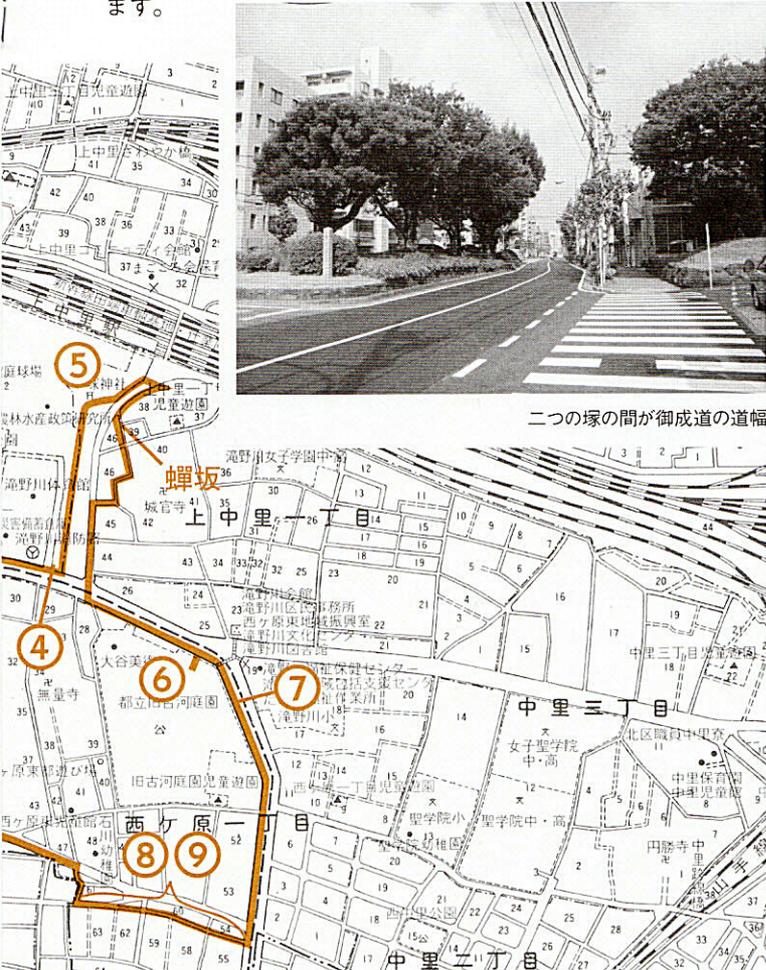
⑦ ゆっくりと下る大炊介坂



⑨ とってもにぎわっています

江戸時代から続く道

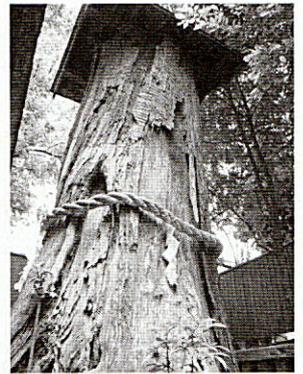
ここ北区に将軍が通った道があるのを皆さんご存知ですか？江戸時代に歴代将軍が徳川家康の回忌に日光東照宮へ参詣するために、江戸から日光へ「御成り」になった道があります。その名も「日光御成道」といいます。日本橋からはじまるこの街道の二里目にあたるのが西ヶ原一里塚です。この西ヶ原一里塚は大正初期の道路拡幅工事で、二つある塚の一つが消え行く運命にあったのですが、渋沢栄一を中心とした地元の方々の運動により中央分離帯のような形で残されることとなりました。そのおかげで私たちは日光御成道の道幅を知ることができます。江戸時代に多くの人々が行き来した道は、今でも北区の人々の生活に根付き、人々や車が行き交っています。



二つの塚の間が御成道の道幅

一本杉の切り株

七社神社は飛鳥山公園から本郷通りを少し歩いたところ、一里塚の近くにあります。しかし、江戸時代の絵図を開いてみると、そこには七社神社の姿はなく、「一本杉神明宮」と書かれています。実は七社神社は今の旧古河庭園の辺りから明治の初め頃に移されたもので、元々は樹齢千年以上といわれる大きな杉を神木とする、神明宮という神社があったのです。杉は残念ながら明治の終わり頃に枯れて高さ3mほどの所で切られてしまいましたが、残されたその大きな切り株は往時の姿を彷彿させています。社の影に隠れていて、少し見つけづらい所がありますが、七社神社を訪れた際には、杉の切り株をぜひ見逃さないようにしてください。



中は空洞になっているそうです

城跡や坂に染み入る蟬の声

JR上中里駅から坂を上っていく途中、左手側にひっそりと佇む石段があります。これが昔の蟬坂です。この坂は攻坂とも呼ばれています。平塚神社の周辺は中世の頃は平塚城であったとされています。今から五百年以上前に戦によって、この城郭が攻め落とされたことにちなんで攻坂と名付けられたそうです。やがて戦が終わり平塚城の跡地に神社が建てられた頃、境内や神社の付近一帯はケヤキの巨木に覆われ、夏には蟬の声が広く響き渡ったので、近所の村人たちがいつしか攻坂(せめざか)を蟬坂(せみざか)と呼ぶようになったとか。攻め込む気持ちで上れば運ぶ足は勇ましく、蟬の声を聞きながら下れば心穏やかになる。素敵で不思議なこの坂にぜひ足を運んでください。



蟬坂はぜひ夏に

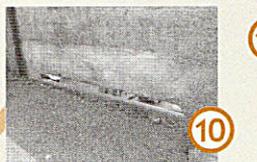
思い出写真館



昭和29年頃の一里塚付近
都電が走ってます



木が大きくなりました(平成22年)



歴史の覗き穴、貝殻が見えます



奈良・平安時代の
東海道、北区にも
あったのです



東京ゲート記念館



丸い線は竪穴住居のあった場所



なぜシーサー!

も 萌え たくわ は たて 桑の葉

—東京高等蚕糸学校と西ヶ原—

【会期】平成22年3月27日～5月5日

現在国立印刷局東京病院が建つ場所には昭和15年(1940)まで養蚕と製糸を教育する官立東京高等蚕糸学校がありました。同校が西ヶ原から小金井に移って70年目を迎えた本年初めて資料の里帰りが実現し、学校の歴史をたどる企画展を開催しました。

借用資料はいずれも古びており、時代を感じさせるものばかりです。特に標本や陳列ケースなどには明治大正期の貴重なガラスが豊富に使用されており、都内といえども150点余りの資料をトラックで運搬する際にはかなり神経を使いました。

会期中の4月11日(日)と5月2日(日)には展示室講話を行い参加者に見所やこぼれ話などをご披露したほか、4月25日(日)には財団法人日本蚕糸会と(株)シネマ・プロにご協力をいただき映画会&トークを開催しました。これは「蚕糸業現況」(昭和6年)「蚕その不思議その恵み～家の蚕と

Event Report

山の蚕」(平成16年)という2本の記録映画を見る催しで、前者については同校養蚕学科を卒業しその後農林省蚕糸局に入られた加藤一夫氏に同時解説を試みていただき、後者については映画を監督した櫻井真樹氏から群馬県内の深刻な蚕糸業界の現状について熱心に語っていただきました。

本年当館では再整備工事が実施され3月27日にリニューアル開館し本展もこれにあわせましたので会期は例年よりも短くなったにもかかわらず、4月初旬の桜陽気も味方して総観覧者数は17,714人を数えました。関係者の皆様方に篤く御礼申し上げます。(守)



展示室入口には巨大な校門が出現!



資料の前にマスク姿の不審者?が解説

北区今昔百景 心を結ぶ、地域を結ぶ 一前新田の念仏講一

これは、北区上十条で念仏講を行う人々が使っている道具です。木枠の両側には「安政六未年八月吉日 前新田講中」と見えます。1859年8月のある日、前新田という辻子の人々が結成した講が作りました。

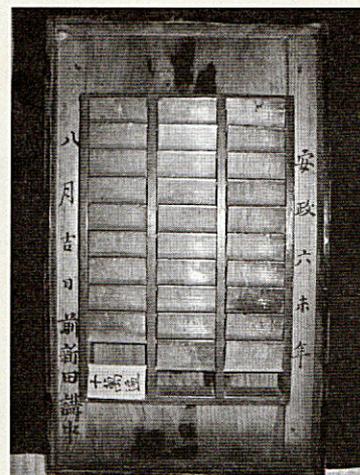
この講が行う行事のひとつに、「十六念仏百万遍」があります。百万遍念仏とは、極楽往生や死者の追善などのために、念仏を百万回唱えることです。この講では、6、7名が円を作り、念仏を唱えながら大きな数珠を回します。「南無阿弥陀仏」の6言が終わるごとに、それぞれに願を掛けます。

数珠回りの後は共同飲食をし、最後に無尽を行います。一般的に、無尽は中世より行われており、参加者が出資した金銭等の取得者をくじで決め、会が一巡すると全員がそれを取得する相互扶助慣行です。参加する一人は、くじに当たった時には思いがけない小遣いをもらうようで嬉しい、と話していました。

かつて、上十条は畑作を中心とする農業地帯でした。百万遍

や無尽の場は、生活の知恵や地域のしきたりを伝承したり、様々な情報を交換したりする場であったのでしょうか。

江戸から平成へ。およそ30年前までとは違い、講の活動の大部分を担っているのは女性です。「続けられるうちは」と言って定期的に集まる女性たちに、継承することへの気負いはみられません。人ととのつながりの中で生きる人々の、自生的かつ緩やかな結びつきが印象的です。(川)



右から、一千遍、一万遍、十万遍を数える10枚ずつの札

大発見!! 豊島郡司の名前がわかった?!

7月21日午後、博物館に奈良文化財研究所からファックスが届きました。今春の平城宮東方官衙地区の発掘調査で「豊嶋郡大領大伴直宮足書」と書かれた木簡が出土し、『続日本紀』に記載された人物と一致したというのです。『続日本紀』神亀元年(724)二月壬子条には、陸奥国鎮所(のちの多賀城)に「私穀」を献上した功績で何人かの下級役人が貴族に準ずる「外従五位下」の官位を授けられたとあります。そのなかに「外従八位上大伴直宮足」の名があり、実に11階級特進したこの人物は武蔵国豊島郡の大領だったのです。地方豪族から任官される郡司には大領・少領・主政・主帳の四等官があり、大領は四等官の長官にあたります。この木簡は史料上の人名が郡司の長官名として具体的に記された珍しい事例となりました。また、郡名の豊島は10

世紀の史料では「島」を使っていますが、この木簡により8世紀には「嶋」だったことがわかります。

西ヶ原2丁目に所在する豊島郡衙は、豊島郡の古代役所跡で7世紀後半に創建され、8世紀前半には大規模な官衙建設が行われました。広大な敷地を有する正倉院は、豊島郡衙最盛期の象徴的な施設でした。私的な穀稲を献上した大領大伴宮足は、相当の財力を持った郡司であり、郡衙造営を推進した人物であったことはまちがいありません。平城遷都1300年祭で賑わう奈良から届いた速報は、東国の古代史を考えるうえで余りにも衝撃的でした。(中)

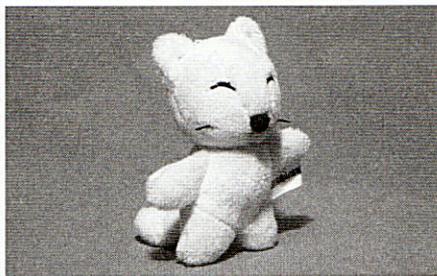


奈良文化財研究所
写真提供

博物館インフォメーション

新作ミュージアム・グッズもよろしく!

リニューアルして、より明るく、より手に取りやすくなったミュージアムショップに、当館オリジナルキャラクター「コン吉」のぬいぐるみが満を持しての登場です。体長約8cm。両脚としっぽの3点で自立するすぐれものです。ボールチェーン付きなので、ストラップとしてもご利用いただけます。「コン吉ってなあに」のミニ付録付きで、頒布価格は380円。ひとつひとつ手づくりのため、表情には微妙な違いが……。受付でよ〜く見比べて、ぜひお気に入りのコン吉ぬいぐるみをお求めください。



人物往来

本年3月31日をもって、前館長・荒井光雄が北区勤労者サービスセンター事務局長として異動し、後任として大石喜之が新たに館長を務めることとなりました。今後ともよろしくお願いたします。

今年も実習生が大奮闘!

8月3日から8月15日までの2週間、学芸員資格の取得を目指す大学生4名が実習生として来館しました。博物館資料の整理に、「夏休みわくわくミュージアム」のイベント補助、野外での取材など、なにごとにも全力で取り組んでくれました。その成果の一部は今号の特集記事「クロズアップ西ヶ原」に掲載しています。実習生のみなさん、お疲れさまでした。

北区の昔を伝える資料や写真を探しています!

当館では、地域で使われていた生活用具や古い写真など、昔の暮らしが分かる資料を探しています。お心当たりのある方は、ぜひ当館(電話03-3916-1133)までご一報ください。



秋 [9月~11月]

- 特別展覧会「第9回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」(9/11~10/11)
- 講座「地域と病—戦前の医療事情」(9/25)
- 特別展覧会関連「人間国宝に学ぶ! 鍛金体験講座」(10/2)
- ふるさと北区区民まつり「勾玉ストラップを作ろう!」(10/2、10/3)
- 見学解説会 東京9区文化財古民家めぐり「旧松澤家住宅説明会」(10/10・11/12)
- 講座「錦絵ギャラリー・レクチャー」(10/16)
- 秋期企画展 中里貝塚国史跡指定10周年記念「奥東京湾の貝塚文化—中里貝塚とその時代—」(10/23~12/5)
- 野外講座「新・遺跡探訪—南関東の貝塚をあるく—」(10/24・11/3・11/6)
- 講座「北区史を読む会」(2)(10/30・10/31)
- 企画展ミュージアム・トーク(11/7、11/20)
- 講座「中世ギャラリー・レクチャー」(11/13、11/14、11/27、11/28)
- 中里貝塚国史跡指定10周年記念シンポジウム「中里貝塚と縄文社会」(11/21)

冬 [12月~3月]

- 講座「錦絵ギャラリー・レクチャー」(12/11、2/19)
 - 講座「絵図に描かれた北区の村(2)」(12/12)
 - 小学校・中学年対応事業「来て、見て、さわって! 昔の道具」(1/8~2/27)
 - 野外講座「江戸東京野菜・東京独活の産地を探る」(1/15)
 - 野外講座「3館史跡巡り」(1/22)
 - 講座「第19回新聞から読む考古学 2010年を振り返る」(1/29)
 - 野外講座「第10回あるけおろじー 古代東海道を探る」(未定)
 - 野外講座「江戸名所図会」を歩こう会(3/5・3/6)
 - 講座「滝野川三軒家の種苗を学ぶ」(3/12・3/13)
 - 春期企画展「駅弁物語・包み紙がものがたる名所・名物」(3/19~5/8)
 - 企画展関連講座「駅弁物語」(3/19)
- ※催し物名は仮称、()内の実施日は予定です。詳細は当館発行の「催し物案内」、北区ニュース、北区HPをご覧ください。

お知らせ

- ふるさと北区区民まつり、文化の日は観覧無料となります!
10月2日(土)・3日(日)、11月3日(祝)は常設展示室を無料でご覧いただけます。この機会にぜひ新しくなった展示をご覧ください。
- 年末年始の休館日
平成22年12月27日(月)~平成23年1月4日(火)

学芸員リレーエッセイ

博物館いろは歌留多

秋刀魚の季節を迎えました。今年は海面温度の変化のためか不漁でしたが、とある休日の夕方に思い切って七輪で秋刀魚を焼いてみて苦味も美味しいその味を堪能しました。

冬になると学習展示として昭和時代の「ちゃぶ台」の上に秋刀魚のレプリカが演示され、本物そっくりの焼き色とみごとな姿を見る子どもたちから大歓声があがります。

このレプリカ、常設展示室を覗くと江戸の花見弁当に始まって絵巻、木像など歴史資料の複製が数多く展示されています。

さて博物館というレプリカ、複製資料は、もちろん人を欺くために作った「偽物」ではありません。また実物資料を出し惜しみしてレプリカばかり並べた訳でもありません。ではなぜ博物館ではレプリカが展示されるのでしょうか。それは常設展示という性質上、パーマネントに陳列するのでどうしても実物資料だと経年変化や資料の劣化は避けられないからです。いつも同じコンディションで北区三万年の歴史を皆様にお示するにはレプリカ資料は不可欠なものです。もちろんレプリカからオリジナルだけが持つオーラや気品までを再現することは困難です。企画展では極力、実物資料中心の展示をいたしますが、レプリカだらけの常設展示には心ひそかに「苦さ」を味わっていることも正直な気持ちです。(倉)

れ
ぷりかに
苦味ありしや
秋刀魚焼き

利用のご案内

【開館時間】

午前10時から午後5時
※観覧券の発行は午後4時30分まで

【休館日】

毎週月曜日
(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)
年末年始(12月27日~1月4日)
このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
小・中・高	100円	80円	240円



- ・JR 京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
- ・地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
- ・都電荒川線 飛鳥山停留所より徒歩4分
- ・都バス 草64、王40系統 飛鳥山停留所より徒歩5分
- ・北区コミュニティバス 飛鳥山停留所より徒歩3分

- ・小学生未満は無料
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧ください。

編集後記

当館はまもなく平成10年の開館以来、100万人目のお客様をお迎えます。これもひとえに、当館の活動をいつも温かく応援してくださる来館者のみなさまのおかげです。

外側も内側も新しくなった新生北区飛鳥山博物館では、さらなる飛躍をめざして、職員一丸となってこれからも全力で邁進してまいります。

(安)

北区飛鳥山博物館だより

ほいす25

発行日 平成22年9月20日
編集 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL. 03-3916-1133
発行 東京都北区教育委員会
〒114-0022 東京都北区王子本町1-2-1
TEL. 03-3908-1111(代)
印刷 羽陽美術印刷株式会社